

令和6年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県北会場

科目 ⑨子どもの遊びの理解と支援

- ◆ これまで、遊び=学びという概念は理解していながらも、子どもの生活における学びの大切さについて、あまり理解できていなかったように思う。今回の講義を受けて、「暇なときにするもの」と少し思っていた遊びを、心身の調和の取れた発達の基礎を培う重要な学びであるということ深く理解することができた。また、学習指導要領で育む資質能力についても学ぶことができた。
- ◆ 児童クラブでは、基本的な生活に関すること、生活全般に関わることが行われます。その中で、子どもは他の子どもと関わり合いながら、遊びを通じて成功や失敗の経験を積み重ね、自分自身の力で伸ばしていくと理解しました。支援員は子どもを1人の人間として見るのが大事であり、身近にいて子どもとともに何かをする人、子どもが安心して頼ることができる存在になれるよう心がける大切さを学びました。
- ◆ 年齢層によっても違う遊び方と、心身の発達のバランスを踏まえながら、一人ひとりの特性に合わせた対応をしていくことの重要性を学びました。子どもとの関わり方も多様で、そのときによって臨機応変さが求められ、あまり意識をせずにその場を楽しくすることに重点を置いてきましたが、子どもたちが自主性を持って、主体的に遊べるように援助し、他を思いやり、上手にコミュニケーションが取れるよう見守ることも大切であると理解しました。
- ◆ 子どもにとっての遊びの重要性、自分が自分で自分からの主体的な遊びの大切さ、見守ることの大切さは理解していたつもりでしたが、再認識しました。「時間を掛ける覚悟が大事」という点については、支援員の共通理解と協力が必要になると思います。見守る環境が整うことで、子どもと一緒に笑い、活動できる場所になるのではないかと思います。
- ◆ 遊びは暇なときにやるものではない。自分の力でやり遂げることが遊びだと聞いて、なるほどと思いました。子どもたちは遊びの中から記憶や認知、更に好奇心や集中力を高めていくと知り、毎日のただの遊びだと簡単に考えてはいけないと思いました。子どもたちが満足するまでチャレンジさせてあげられるような環境づくりに注意していきたいと思います。また、興味を持つものが何かわからないので、何に興味を持ってもいいように、たくさんの遊びを準備しておきたいです。